

フィリピン滞在記 ⑫---5月は「恋の季節」ならぬ「政治の季節」

為我井輝忠

フィリピンでは最近街を歩いていると、あちこちで選挙ポスターを目にする。時折大きな宣伝カーが立候補者の大きな顔写真を載せ、大きな音響で音楽を流しながらやって来る。驚いたことには、車からうちわやキャンディなどがばらまかれることである。見てみると、けっこう大きな大人の方がそうしたものを拾って喜々としている。ただ、日本のような公約をまくし立てる候補者の街頭宣伝の如きものはなさそうである。

6年に1回の割で、間もなく選挙の季節がやって来る。フィリピンでは今年5月に6年の任期終了に伴い、大統領、副大統領および上院議員の半数に当たる12名と3年の任期終了の下院議員292名、地方自治体(州知事、副州知事、州議会議員、市長、市議会、町長、副町長、町議員)の選挙が5月9日(月)に同時に実施される。本年度は村(バラングイ)の選挙も行われるが、バラングイ選挙日程は、統一選挙が終わった後に公表される。



大統領選挙に立候補している4人の候補者たち(左から、ポー、ビナイ、ロハス、デュテルテの各氏)

さて、これからは大統領選挙を中心に見ていきたい。フィリピンでは大統領候補となるためには、「フィリピン人の両親」、「10年以上連続してフィリピンに住んでいる」という2つの条件がある。

3月13日の時点では、大統領候補はManuel Roxas II (マニユエル・ロハス)、Rodrigo Duterte (ロドリゴ・デュテルテ)、Jejomar Binay (ジェジョマール・ビナイ)、Grace Poe(グレース・ポー)の4人に絞られている。2月に開かれた公開討論会には

ミリアム・サンチャゴという女性候補も登場していたが、その後脱落したようである。

個々の候補者を紹介したい。まず、前内務・自治相のロハス候補は、現在の100ペソ紙幣に印刷されている、第2次世界大戦後に成立したフィリピン第三共和国の初代大統領Manuel Roxasの実孫にあたる。アメリカの大学を卒業後、同国にとどまり働いていたが、勤務先の銀行のフィリピン進出に伴い1991年帰国した。2年後、実弟の死亡により下院議員の補欠選挙で当選を果たす。米国での豊富な人脈と経験を生かして、通商産業省長官、エネルギー省長



私が住んでいるダグーパン市の市議会議員に立候補している候補者のポスター

選出されるポジションの定員と任期及び再選規定

ポジション	定員	任期	再選規定
大統領	1名	6年	なし
副大統領	1名	6年	2選まで2回(連続2期不可)
上院議員	12名	6年	3選連続3期(3年毎半数改選)
下院議員	292名	3年	3選連続3期
地方行政	約16,000名	3年	3選連続3期

注) 上院議員、下院議員、地方行政とも連続3期を超える再選は禁止しているが、1期以上の期間を開けての再選には制限がない。

■選挙日程は次の通り。

▲選挙キャンペーン：

大統領、副大統領、上院議員→2016年2月9日～5月7日

下院議員、地方行政→2016年3月26日～5月7日

▲銃器や酒類に関する禁止期間：

銃器の携帯禁止→2016年1月10日～6月8日

酒類の販売禁止→2016年5月5日～5月9日

官等を歴任している。前回の大統領選で立候補しようとしたが、同じ自由党の現大統領のアキノ氏が公認を得たことで断念したが、今回はアキノ氏の後任として立候補している。ビジネス界の支持が強い。

デュテルテ候補は、フィリピンの他の政治家と同様政治家一家の威光の元で生まれ、父親はダバオの州知事であった。彼は弁護士としての資格を持っているが、犯罪者と薬物と闘う人の代名詞になっていて、自警団を用いて過激な地域の治安回復を図ったやり方からマスコミ等にはダバオ処刑団(Dabao Death Squad)と揶揄されている。国連からは、世界の都市の中で9番目に安全な都市と認定されているが、その背景には、犯罪者や麻薬密売者、反政府活動団体に対して、法的な手続きを無視した取り締まりをしているからだと言われている。彼は富裕層に人気があり、アメリカの共和党のトランプ氏とよく似ており、「フィリピンのトランプ」などと評されている。

ビナイ候補は、2010年の副大統領選に出馬し、エストラダ大統領とタックを組んで当選した。また、マカティ市長としても最長の就任期間を通じて、市の発展に大きく寄与したが、その一方で、不正な蓄財疑惑も持たれている。彼の家族は典型的な世襲政治家一家で、娘は上院議員、息子はマカティ

市長である。貧困層に人気があるが、最近のニュースで不正に蓄財した金を香港の銀行に移したという事実が発覚し、今後の選挙戦に影響を与える模様である。

最後のポー候補はどの政党にも属さず、独自に立候補しているが、彼女は大統領候補となるための条件が不明だとして最高裁で争われた。フィリピンの両親の元での出生と10年以上フィリピンに住んでいることが明確でないとされてきた。しかし、それらは何とかクリアしたようである。彼女は孤児として教

会で拾われ、神の恵みと言う意味で“Grace”と名づけられ、その後、フィリピンの有名な俳優夫妻の養女となり、米国での教育(ボストン大学)を受け、しばらく教師として同国で働いていた。ところが2004年の大統領選挙の際、アロヨ大統領候補の公金が選挙資金への流用された疑惑が持たれ、その対抗馬として立候補した父親のフェルナンド・ポー氏の応援のために帰国した。帰国後、自由で公正な選挙の実施を呼びかけるキャンペーンを行い、2013年上院議員に政党の支持を受けずに独立候補として、トップ当選している。政治家としての経験に乏しいこととフィリピンの両親から生まれたとの証明が出来ない点を反対勢力側から攻撃されている。しかし、他の政治家にないクリーンなイメージを持ち、最有力候補者に挙げられている。

あと1か月ほどの期間に選挙戦がどのように展開していくのか大いに興味あるところである。近く4人の候補者による大々的な討論会が計画されていて、しばらくは目を離すことが出来ないかもしれない。しかし、筆者は3月末から5月上旬まで日本に一時帰国するために選挙情勢を十分知ることが出来なくなるのが残念である。現在はインターネットで知ることが出来るので、幾分かは分かるであろう。